

渋谷 正文

〔ふるの未来の会〕

人・農地プラン

問 農地集積の取り組みは。

答 流動が見込まれる農地の所有者、耕作状況等に関する情報のリスト化については、それぞれの地域農業者が話し合いを通じてマップに落とす作業から始めなければならぬと考える。

土地利用の再編に向けた合意形成は、農業委員会と連携し地域に出向き、話し合いの場を作る考えであり、この議論を牽引するのは、農事組合長、農協理事等の地域リーダーと考える。地域の自主性を引き出し、地域の話し合いが円滑に進むよう必要な情報提供や議論の進行を関係団体間で連携し、支援したい。

固形燃料(RDF)を市内で活用する可能性は

問 ボイラー導入普及に向けた進捗状況と課題は。

答 専用ボイラーでの燃焼の一次試験を行い、安定燃焼と燃焼



製造された固形燃料 (RDF)

灰のクリンカ生成がないことを確認。固形燃料を専用ボイラーに定量供給するための粒度調整する破碎試験を行い、良好な結果を得ている。今後、装置全体としての燃焼試験を予定し、農業用ハウス等のエネルギー活用方法を検討する。

問 専用ボイラーの経済性は。

答 今回の試験では、民間ベークスでかなりコストが低減化され、維持管理も比較的簡便にできる商品提案があった。そうしたものを実際に使って燃焼試験を行い、排ガス等のクリア、維持管理の点を検討し進めていく。試験が始まった段階なので、今後の状況を十分把握しながら検討を進めたい。

大栗 民江

〔公明党〕

健康増進の取り組みは

問 「健康日本21」が今年度からスタートした。本市における健康寿命延伸の取り組みは。

答 健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限なく生活できる期間とされており、北海道の平成22年の健康寿命は、男性が70.03歳、女性が73.19歳。健康寿命の延伸には、健康増進・疾病予防に加え早期発見、重症化予防、介護予防や介護サービスなど様々な取り組みが必要。第二次計画にて、年代に応じて効果的に推進していく。

問 お子様連れでも安心して検診を受けられる環境を整備する一環として、開催側から希望を一言添えるなど検診時の託児についての考えは。

答 子宮がん検診は、20歳以上の女性を対象としていることから、子育て中の女性も受診する検診。保健センターの会場は乳幼児が遊べるスペースを設けて

あり、検診のお知らせの際には、子ども連れで受診できることを周知していきたい。

健康づくりをしやすい取り組みの「健康マイレージ」を

問 健康づくりをポイント換算し、利用券との交換や寄付など工夫してまちづくりや人づくりにつなげていくことが期待できる健康マイレージへの考えは。

答 健康マイレージ制度は、健康づくりへの取り組みをポイント化し、健康づくりへの積極的な参加を誘導する仕組み。既に取り組まれている自治体の実施内容や効果、経費、課題など参考とさせていただき、調査研究をしていきたい。



総合計画と健康増進計画